

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34419

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20295

研究課題名（和文）勝田守一の教育学構想における教育方法論の検討

研究課題名（英文）Educational Methodology within Shuichi Katsuta's Educational Philosophy

研究代表者

松本 圭朗（MATSUMOTO, YOSHIRO）

近畿大学・生物理工学部・助教

研究者番号：00967440

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、勝田守一の教育学構想における教育方法論を検討するものである。具体的な作業としては、主に次の2つをおこなった。第一に、勝田の教育学構想における教科指導概念と幼児教育論の2つの史的展開を辿った。第二に、勝田の教育学構想を解明するために必要な周辺事項を整理した。その結果、勝田の教育学構想における教育方法論は、「集団」概念を中核とするものであることが明らかとなった。また、資料の整理等によって、勝田の教育学構想を解明するための手がかりを得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究において、勝田は「系統的に構想された科学的な教育内容」を教えようとしてきた人物として位置づけられてきた。一方の本研究は、勝田が「集団」概念にも着目する人物であることを明らかにした。すなわち、本研究は、教育の前提には集団が存在することの原理的意義を改めて提示する点に学術的意義がある。昨今、学校教育に対して、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が求められている。そのなかで、本研究は「協働的な学び」をより推進していく必要性を原理的に提示する点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study examines the pedagogical methodology within Shuichi Katsuta's educational philosophy. Specifically, two primary tasks were undertaken. First, we traced the historical evolution of concepts pertaining to subject teaching and early childhood education theory within Katsuta's educational philosophy. Second, we organized the relevant materials required to clarify such philosophy. The findings revealed that Katsuta's pedagogical methodology is fundamentally centered around the concept of human relationships. Moreover, by systematically examining the relevant materials, we were able to gain insights that can aid in understanding such philosophy.

研究分野：教育方法学

キーワード：勝田守一 教科指導 幼児教育

## 1. 研究開始当初の背景

戦後教育学をめぐる研究動向の幹流を成す教育学者の一人が勝田守一(1908-1969年)である。戦前・戦中期の勝田は、旧制松本高等学校に勤務し、京都学派の思想圏において哲学的思索を深めた。戦後期は、文部省に勤務し、「学習指導要領」の策定に携わる。文部省を退職後、学習院大学を経て、東京大学に勤務した。また、教育科学研究会をはじめとした民間教育研究運動にも関与した。

こうした経歴をもつ勝田の教育学構想のなかでも、教育的価値論の検討が教育思想史研究としてなされてきた。勝田は「子どもの発達」を教育的価値の中核に据え、戦後教育学に理論的基礎を与える一方で、教育的価値に内在する政治性や権力性を看過し、教育の脱政治化を促したとされている(小玉2017)。こうした評価がなされている勝田の教育学構想は、学力論や教育実践記録における「典型」論等に代表される教育方法研究に関する知見も供してきた。本研究も、戦後期の勝田の教育学構想から教育方法に関する知見を得ようとするものである。

勝田の教育学構想を教育方法という視座から捉えた時に看過できないのは、勝田が「教育学は、まさに技術知である」と定義し、その技術知を「もっと違った仕方であることのできるもの」とした点である(勝田1973)。この定義には価値が含まれておらず、教化をも含み込む。しかし、勝田は技術知と教育的価値の探求を補完的に位置づけ、教育的価値によって教育を教育たり得るものとした。すなわち、勝田の教育学構想(以下、勝田教育学)における教育方法論は、教育的価値論とともに、その根幹を成している。例えば堀尾輝久は勝田教育学を、教育的価値の探求と教育の技術的探求とを結びつけておこなう価値的・実践的科学と評した(堀尾1991)。また、佐藤学も戦後教育学批判の潮流のなかで、「発達」に教育の自律的価値を求める勝田教育学は現実の教育実践の創造に有効だろうか、と疑問を投げかけている(佐藤2001)。つまり、戦後教育学批判がなされた1990年代前後に、勝田教育学における教育方法論の重要性は指摘されており、その教育実践における有効性、教育方法論に関する意義が問われていた。しかし、戦後教育学批判＝勝田教育学における教育的価値論への批判は、勝田教育学における教育方法論の未検討という結果も生んでいる。すなわち、勝田教育学における教育方法論の解明は重要な課題であるにもかかわらず、検討されてこなかった。そのため、勝田教育学における教育的価値論と教育方法論とが交わらず、勝田教育学を総合的に評価できない状況にある。そこで、まずは勝田教育学における教育方法論はどのようなものであったのか、を解明する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、勝田教育学における教育方法論の描出を通じて、教育的価値と教育方法との往還関係の解明の手がかりを得ることである。

## 3. 研究の方法

本研究では、上記の研究課題に対して、教科指導概念の解明、幼児教育論の解明、勝田に関する周辺事項の整理、をおこなった。

### 勝田の教科指導概念の解明

勝田の名著は、戦後教育学の最良の到達点とも評される『能力と発達と学習』(1964年、国土社)である(佐藤2001)。それは同時に、『能力と発達と学習』が、勝田の教育学構想の1つの到達点であることを意味する。勝田は名著『能力と発達と学習』において、「教育とは、学習の指導だ」(勝田1964:141)と定義した。勝田の教育学構想における学習指導は、その中核を成す概念でもある。しかし一方で、同時期の勝田は別稿において、「子どもに、学習の指導と教授のはたらきかけが行なわれる」(勝田1963=1972:201)とも述べている。勝田の教育学構想において教授は教育の中核を成す概念とはならないのか。あるいは、勝田の教育学構想における学習指導と教授は、どのように区別されるのか。勝田の名著における「教育とは、学習の指導だ」という定義に教授が含まれていないことに鑑みたとき、勝田の教育学構想のもとで形成された、学習指導や教授等を含めた教科における指導、すなわち教科指導概念それ自体の仔細な検討が必要となる。

そこででは、勝田の教育学構想における教科指導概念を検討する。これにより、勝田の学習指導概念、教授概念との異同ないしは差異を明らかにする。と同時に、そこに通底するものを明らかにする。この作業により、教育方法論の中心となる教科指導概念の中核が明らかとなる。

### 勝田の幼児教育論の解明

勝田の名著『能力と発達と学習』には、幼児教育への関心も現れている。宍戸健夫は『能力と発達と学習』を「戦後の代表的な幼児教育論」とみる(宍戸1968:229)。それは、「『科学的概念』があたえられることによって、子どもの発達が可能になるという視点は、幼児観のうえにも大きな前進をもたらすものであった」という理由による(宍戸1968:232)。また、宍戸は『能力と発達と学習』が「幼児保育も認識力の形成という教育の課題をひきうけるかぎり、目的的な『学

習の組織』が必要となること」を提示したとも指摘する(宍戸 1989: 173)。さらに、山住正己によれば、勝田は1960年代前半に教科研の「認識と教育」部会や「道徳と教育」部会の立ち上げへの関与の中で幼児教育への関心を高めたという(山住 1972: 539)。つまり、勝田の幼児教育論は『能力と発達と学習』に依って解されることによって、勝田の学校教育論と幼児教育論とが『能力と発達と学習』という同一地点に収斂し、幼児教育にも認識の形成を求めたとされている。しかし、幼児教育論それ自体の展開過程および構造の解明には至っていない。

そこででは、従来の勝田教育学研究が取り扱ってこなかった幼児教育論を検討する。これは、「発達」に着目する勝田が、学齢期以前の子どもに対して、どのような教育を試みていたのかを明らかにするものである。この作業により、学齢期の子どもに対する教育に求めていたものが、より明らかとなる。

#### 勝田に関する周辺事項の検討

では、勝田教育学を解明するための周辺事項を整理する。具体的には、勝田が監修者として加わった『世界教育学選集』への関与の整理、主著『能力と発達と学習』と初出との異同の整理、をおこなう。いずれも、戦後教育学の「古典(カノン)」とされる文献である。この2つに対して整理をおこなうことで、1つの著作が「古典(カノン)」となる過程を探る手がかりが得られるだろう。そして、勝田教育学を明らかにするための手がかりを得ることができるだろう。

『世界教育学選集』は、明治図書出版が創業50年記念事業と創業60年記念事業の1つとして企画し、1960年から1983年にかけて全100巻を刊行したものである。その監修を務めたのが、東京教育大学の梅根悟(1903-1980年)と、勝田であった。また、『能力と発達と学習』は何度か復刊している戦後教育学を代表する文献である。しかし、『能力と発達と学習』の初版と、『勝田守一著作集』に収録されているものとはテキストに異同がみられる。したがって、『能力と発達と学習』は、少なくとも、連載、初版、著作集との間でテキスト異同がみられる著作である。

なお、『勝田守一著作集』に未収録の論考の発見・入手を企図して、各地域で発行されていた教育関連雑誌の整理もおこなった。

#### 4. 研究成果

本研究によって、勝田教育学における教育方法論が「集団/人間関係」概念を中核としたものであることを明らかにした。勝田は、集団的な学習の指導を第一に求めたうえで、それを補うものとして教授を位置づけていた。そして、教授すべき教育内容も、これまでの人類の労働・科学という人間関係によって生み出されたものとして、同様の観点から定位していた。さらに、勝田は学齢期だけではなく幼児期の教育においても「集団/人間関係」を重視し、数や文字を早期に教えることには反対の立場を示していた。これは、子どもの発達を見据えてのことであった。つまり、勝田の教育的価値論の中核としての「発達」と、「集団/人間関係」を中核とする教育方法とは補完的な関係にあることが明らかとなった。

また、勝田教育学の周辺事項についても整理をおこない、一定の成果を得ることができた。第1に、雑誌『PTA教室』の目録を作成することができた。ここには勝田の論考を発見することができなかったが、資料として有益であり、公刊した。その他にも、雑誌『静岡の教育』も入手することができた。第2に、勝田の主著『能力と発達と学習』と、初出の雑誌『教育』における連載におけるテキスト異同を整理した。くわえて、梅根悟と勝田とが監修をおこなった『世界教育学選集』における両者の関与についても整理をおこなった。いずれも、勝田教育学を詳らかにするために必要となる資料である。

こうした研究成果は、従来の教育方法学分野における勝田への評価「教育と科学の結合」論者、系統主義主義とは異なる知見を供するものである。これは、勝田の「発達」を中核とした教育的価値論は、教育の脱政治化をもたらしたとの評価が一定程度の合意を得ている状況に対しても示唆的である。なぜなら、「集団/人間関係」は必然的に他者との葛藤・摩擦、ないしは、共同の契機を内包しており、それは「政治」の原初的形態ともいえるからである。したがって、本研究結果から、勝田教育学における教育方法論「いかにすべきか」という教育方法が生み出す政治性というものへの検討が予見される。

以上のように、勝田の教育方法論における中核概念を明らかにするとともに、周辺事項に関する資料も整理することができた。今後、これら进行分析し、研究成果を公表していく。

#### 引用文献

- 勝田守一(1964)『能力と発達と学習』国土社。
- 勝田守一(1972)『人間形成と教育(勝田守一著作集 第4巻)』国土社。
- 勝田守一(1973)『人間の科学としての教育学(勝田守一著作集 第6巻)』国土社。
- 小玉重夫(2017)「勝田守一」教育思想史学会編『教育思想事典(増補改訂版)』勁草書房、99-100頁。
- 佐藤学(2001)『戦後教育学』の最良の到達点 勝田守一『能力と発達と学習』佐藤学編『教育本44』平凡社、56-61頁。
- 宍戸健夫(1968)『現代の保育理論と幼児観』国民教育研究所編『日本の幼児(国民教育 第9巻)』明治図書出版、193-243頁。

宍戸健夫（1989）『日本の幼児保育（下）』青木書店。

堀尾輝久（1991）『人間形成と教育』岩波書店。

山住正己（1972）「解説」勝田守一『勝田守一著作集（第3巻）』国土社、532-541頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松本圭朗	4. 巻 26
2. 論文標題 雑誌『PTA 教室(新生活)』総目次	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育科学論集	6. 最初と最後の頁 35 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松本圭朗
2. 発表標題 勝田守一の教科指導概念の史的展開に関する一考察
3. 学会等名 日本教育方法学会 第59回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本圭朗
2. 発表標題 勝田守一の幼児教育論に関する一考察
3. 学会等名 日本保育学会 第77回大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------